

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	建築造形論
科目基礎情報					
科目番号	94041		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	建設工学専攻A		対象学年	専2	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	「テキスト建築意匠」平尾和洋・末包伸吾著 (学芸出版社)				
担当教員	三島 雅博				
到達目標					
(ア)現代建築の理念を理解し、おおよその流れを説明できる。 (イ)建築の本質に関する様々な考えを理解する。 (ウ)建築を構成する各要素とその意義を説明できる。 (エ)建築の造形手法を説明できる。 (オ)実際の建築作品を研究して、設計者の造形意図を説明できる。					
ルーブリック					
	最低限の到達レベルの目安(優)		最低限の到達レベルの目安(良)		最低限の到達レベルの目安(不可)
評価項目(ア)	現代建築の理念を理解し、その流れを説明できる。		現代建築の理念を理解し、おおよその流れを説明できる。		現代建築の理念を理解しておらず、おおよその流れを説明できない。
評価項目(イ)	建築の本質に関する様々な考えを理解し説明できる。		建築の本質に関する様々な考えをおおよそ理解している。		建築の本質に関する様々な考えが理解できていない。
評価項目(ウ)	建築の造形手法を理解し説明できる。		建築の造形手法のおおよそを理解している。		建築の造形手法が理解できていない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 B3 建築分野の実社会に必要で役立つ知識や技術を応用して問題を解決する能力を修得する。 学習・教育到達度目標 E1 日本や世界の文化や歴史を、地球的な視点から多面的に認識し、建築技術が社会に与える影響を理解する能力を修得する。 JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力 本校教育目標 ② 基礎学力 本校教育目標 ⑤ 技術者倫理					
教育方法等					
概要	建築物の形は、ただ単に機能を満たすことだけに形作られているわけではなく、ましてや漠然と「美」を生み出すために造り出されているわけではない。建てられた時代の全ての価値観・哲学・理念が建築に表現され、また、建設の目的が建物の機能を超えて造形を支配する。さらに、その建築が建てられた場所や周辺の風土までが造形に影響を及ぼすなど、様々な要因が建築の造形を規定している。_x000D_本講義では、建築の造形にどのように要因が影響していたのかを探り、建築造形の過程や本質を明らかにする。				
授業の進め方・方法	授業は、受講者に割り当てられた発表を基に進められる。				
注意点	受講者は教員の薦める文献などで毎授業ごとに予習をしていくことが必要である。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	現代の建築理論：近代建築批判、歴史主義 授業後に復習し、学習内容の理解を深めること。	「授業内容」を理解し説明できる。	
		2週	現代の建築理論：合理主義、構造主義 受講者は予習をしていくことが必要である。	「授業内容」を理解し説明できる。	
		3週	現代の建築理論：場所、構造・技術、脱構築 受講者は予習をしていくことが必要である。	「授業内容」を理解し説明できる。	
		4週	戦後日本の建築思想：テクニカル・アプローチ、伝統論争 受講者は予習をしていくことが必要である。	「授業内容」を理解し説明できる。	
		5週	戦後日本の建築思想：メタポリズム 受講者は予習をしていくことが必要である。	「授業内容」を理解し説明できる。	
		6週	戦後日本の建築思想：建築の解体 受講者は予習をしていくことが必要である。	「授業内容」を理解し説明できる。	
		7週	建築の原点：聖なる場所、原始の小屋、ゲニウス・ロキ 受講者は予習をしていくことが必要である。	「授業内容」を理解し説明できる。	
		8週	建築形態の要素：内と外、床、屋根、壁、柱、開口 受講者は予習をしていくことが必要である。	「授業内容」を理解し説明できる。	
	4thQ	9週	建築の造形：点・線・面・ヴォリューム、中心性・方向性、かたちの操作、かたちの組織化 受講者は予習をしていくことが必要である。	「授業内容」を理解し説明できる。	
		10週	部分と全体：調和とプロポーション、身体と人間尺度、ミクロコスモスの思想、部分の集まり、分節化 受講者は予習をしていくことが必要である。	「授業内容」を理解し説明できる。	
		11週	空間イメージ：幾何学的空間、建築の本質としての空間 受講者は予習をしていくことが必要である。	「授業内容」を理解し説明できる。	
		12週	構造と表現：積む形、組む形、曲げる形 受講者は予習をしていくことが必要である。	「授業内容」を理解し説明できる。	

		13週	実作研究 授業後に復習し、学習内容の理解を深めること。	これまでの「授業内容」を理解し建築実作の造形理念を説明できる。
		14週	実作研究 授業後に復習し、学習内容の理解を深めること。	これまでの「授業内容」を理解し建築実作の造形理念を説明できる。
		15週	実作研究 授業後に復習し、学習内容の理解を深めること。	これまでの「授業内容」を理解し建築実作の造形理念を説明できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	レポート	合計	
総合評価割合		40	60	100	
専門的能力		40	60	100	